

若浜の子ども



令和2年5月18日 第4号

臨時休業で失ったもの・得たもの



先週はアンケートにご協力いただきありがとうございました。各種メディアの記事を見ると、教育行政・学校への不信・不満、子どもの様子についての心配、親のストレスなど、新型コロナウイルスそのもの以上に、臨時休業が日常生活への大きな負担となっていることが報じられています。大きな負担であったことについては、本校も例外ではありませんが、今回のアンケートを見て、様々な対応をご家庭で工夫されていることがわかり、感謝の気持ちとともに、若浜小学校のご家庭に対する尊敬の念を強くしました。

アンケート結果の詳細についてはメールでお知らせしたとおりですが、印象に残ったコメントの一部をご紹介します。

- 子供と、料理をしたり裁縫したり、サイクリングしたり 普段は子供が忙し過ぎてできなかったことができました。 大変な災害の中でも家族と共にある幸せを感じました。勉強は、努力でいくらでも挽回できる！ 家族の絆は、機を逃すと取り返しがつかないので 考え方を変わればいい経験であったと思っています。
- 自粛中だから、お家の中でずっと一緒にいるうちに、守ってあげられるのは私たち家族なんだと思う気持ちと愛おしさが増しました。
- 生活リズムは崩れていませんが、1人で勉強するせいか、張り合いがなく、全てにおいて、子供が面倒くさがるようになりました。基本的な学力の定着だけでなく、人との関わりの面においても、学校の重要さを実感しました。
- 漫然と過ごしている姿に親としては焦りがあり、出来ない・しないことに対して目がいき、親の方がストレスを感じていました。ですが、子どもと話す・遊ぶ・過ごす時間が普段より多くなった気がします。

- 家庭学習を、頑張っていました！ 家の草むしりを、なかなか、できなかったのに、子供達に、やってもらいました！ お手伝いを、結構、してくれて、たすかりました！ 学校がある時は、あまり、してくれないので、助かりました！！
- 普段、宿題、習い事、スポ少などで子どもが忙し過ぎだということがわかりました。 ほぼ全て無くなり、自由に創造力を発揮して色々な遊びをしていて親も気付きがありました。 学校の勉強は家でやるには限界があるようでさっぱり進んでいないのは問題点ですが、 ある意味“子どもらしい”時間を取り戻せた日々でもあったと思います。
- 休校当初は困惑していましたが、子供と接する時間が長くなり普段出来てなかった小さな日常を通してワークライフバランスを見つめ直す機会になっています。 まだ暫くはコロナの影響で不安定な状況が続くでしょうが、こんな時だからこそ家族とシンプルに向き合う尊い機会ではと前向きに捉えております。 親として出来る事は、今までのライフスタイルに捉われず柔軟に家庭・学校・仕事のバランスを取って子供の将来に「ネガティブな影響にならないよう努めたい」と考えています。
- 兄妹とすごく仲良くなりました。毎日一緒に遊び、家族そろって、朝昼晩とご飯を食べて、ゆったりとした時間を過ごせています。勉強はあまりやる気がないようです。皆んながいるから頑張れると言っていました。
- 当たり前に通学出来ていた毎日が、とても有難い事なんだと言う事を再確認致しました。でもそれで腐るのではなく、ステイホームでせっかく触れあえる時間が増えたのだから、会話も家で楽しむ事も、体も頭も使って工夫して過ごしています。

<今後の授業時数等について>

臨時休業によって失った授業時数は110~120時間まで膨らんでしまいましたので、6時間授業の増加、行事の削減、夏休みの短縮等の策を講じても、時数を元通りに挽回することはできません。そこで、今年しっかり覚えなければ来年困ること、今年やらなくても来年挽回ができること、子どもの心の成長のためには必要な活動など、計画していた教育活動を色分けしたうえで、優先順位の高いものを確実に実施し、数字上ではない、実質的な面で目標を達成するように努力します。また、これからも動画を作成し、ピンチをピンチのままにしておかない工夫を行います。

<おまけコーナー>

私事ですが、ここ1ヶ月ほど何を食べてもじん麻疹がでるので受診したところ、医師から「ストレスが原因かもしれませんね。何か思い当たることはありますか？」と尋ねられました。思い当たるどころか、3月からストレスが溜まりに溜まっています。